

# 庄内協同ファームだより

No.155 2015年3月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338  
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140  
<http://www.shonafarm.com>



庄内町千河原地区で行われた奇祭「やや祭り」。子供の無病息災を祈る。

新年を迎えるはや1ヶ月も経ち、立春の声とともに少しづつ朝日の出も早くなり、去年の反省（税金の申告の準備）をする時期になりました。

例年とあまりに違う数字に「自分のような農家（小規模）でもこの状態では、規模の大きな農家さんの痛手はどんなだろうか」と思いつつ、ながめています。

それでも我々農耕民族は、豊作を喜び凶作には耐え忍び、田んぼや伝統文化を守ってきました。今後、他産業（狩猟民族）が農業に参入し、儲からないとなれば農地を放置して去つて行き、そして農地は誰からも管理されずに放棄地になるのではないかと危惧しています。かといって一人では農地を守ることができず、集団でも離農する人が増える現状では耕地（稻作農業）

を守ることはできないのではと考えながら慣れないう数字と格闘しています。

兼業農家の我が家では、どうやって農業を続けられるかを考えていたときに、「自分の身幅に合ったやり方があるはずだ」とアドバイスをいただき、米加工を始めました。

「玄米おこし」「米おこ

し」「ぽんちゃん」おひな様用の「三色ぽんちゃん」。

初めの頃は「こんなもの売れんなが？」と父親に言われながらも家族で作り続けて、今では庄内協同ファームの定番商品に入れてもらい、消費者の皆さんに喜んでもらえるようになりました。

今、六次産業を立ち上げようと行政も手掛け始めましたが、あくまでもコツコツと土を愛する農耕民族のように、また作物を育てるように大事に自分の商品を育てなければ、どんな仕事も結果は同じではないでしょう。

さあ今年もどんな年になるか、いい年になるように春作業の準備を始めなければと思いつつ、久しぶりに自分の気持ちを文字にしてみて、今まで我が家を支えてくれた多くの人たちを思い出し懐かしさと感謝の気持ちにさせていただきました。



# 福島仮設住宅での餅つき交流会に参加して

1月27、28日、あいコープふくしまさんと森農園さん、そして庄内協同ファームが共催で福島県本宮市にある浪江町の住人のみなさんが暮らす仮設住宅にお邪魔してお餅つき交流会に参加してきました。今年で3回目になります。初日は、あいコープふくしまの組合員である同世代のお母さんたちと交流し、今現在の状況を伺いました。震災からもうすぐ4年目となり、母子で近隣県に避難していた方々も少しずつ福島に戻り始めお父さんと家族一緒に暮らすことに幸せを実感しているといいます。それでも、まだ避難を続けている人、福島に残って子育てしてきた人、様々な葛藤を抱えて今あるということを良いも悪いもなく認め合おうとする姿に共感しました。ネガティブな感情を共有することで、胸に閉じ込めた思いを吐き出してはじめてママたちが元気になり、子供た



高橋 紀子

ち家族を明るく出来るのだということに気がつきました。

仮設で暮らす橋柳子さんのお話では、明らかに原発事

故は再生と復興が出来ないことが自然災害とは決定的に違い、その土地の歴史や文化、人間関係までをも全てを奪い尽くす点で戦争と何も変わらないとおっしゃっていました。まだ多くの福島県民が苦しんでいるにもかかわらず原発再稼動に突き進むことに憤りを覚えます。

「国は民衆を守らない」このことを前提に私たちが前を向いて生きていくにはどうすればいいのでしょうか?

2日目に、仮設住宅の交流広場の施設をお借りして、住民のみなさん、あいコープふくしま組合員のお母さん方、庄内協同ファームのメンバーみんなが協力して、つきたてのお餅をお雑煮やきなこ、あんこ、大根おろしとともにお腹いっぱいいただきました。庄内独特の磯のりや芋の茎の具材にみなさん興味深々でした!最初に伺った年よりもみなさん笑顔が増えてきたように感じました。知り合いになった紺野ヨネさんはお友達に「私の孫だ~!」なんて紹介してくださってとてもうれしかったです。今後とも、餅つき交流や庄内への海水浴ツアーを通して、福島の皆さんとのつながりを深め、一日も早いこの復興を応援していきたいと思っています。



## お米合宿2015

富樫 俊 悅

小雪がちらちら降る1月16日に由良の民宿でお米合宿を開催し、19名と多くの参加がありました。

午前中は米部会。米の入庫状況や出荷基準、作付計画や資材について話し合われました。午後からはお米の勉強会です。

最初に三名の方から事例報告がありました。志藤正一さんは、ここ八年間にわたる自分の稻作記録(品種 栽培方法 肥料の種類 収量)を元にした考察と有機農業に対する考え方、さらには経営の収支まで公開していただきました。廣井嘉治さんは昨年の稻作を詳しく解説していただき、結果と反省点などを話していただきました。五十嵐勇輝さんは2011年から2013年の三年間、農村通信の稻株塾生としてつや姫栽培にあたった記録(生育調査を含む多数のデータ)から自分の稻作に対する様々な考察

を紹介していただきました。三名とも深い内容の発表で大変勉強になりました。

その後には、去年の生産者集会でも実際に見た「ブラシローラー型除草機」について現状どうなっているのか、菅原孝明さんから報告を頂きました。残念ながら今年はまだ販売できないようです。

試験場の安藤正さんからは有機栽培での有機質肥料のことと、チェーン除草でのコナギの対策について話していました。それぞれの肥料で無機化する速度も割合も違うことがはっきりわかりました。またチェーン除草はどのぐらいの頻度でかけば良いのかも分りやすかったです。

その後は参加者全員で稻作技術全般にわたって上手といった事や失敗したこと、コツなど三時間も話し合いました。みんなそれぞれ多くの経験がありますのでたくさんの話が出てあつという間に時間が過ぎました。

この流れで夜の懇親会も大いに盛り上がり、みなさん遅くまで話に花が咲き乱れました。今年の豊作を予感させる稻作合宿でした!

# 「ストップ! TPP集会に参加して」

富 横 英治

去る1月に山形市で開催されたストップ!TPP集会に参加して、TPPの交渉が実は農業を隠れ蓑にした様々な問題を引き起こす恐れがあると知られた内容をかいづまんでお伝えしたい。

## 1) 米の価格はまだ高いと言えるのか?

TPPに対しての国民の受け止め方は、この問題は農産物の関税の問題であり、自由貿易や規制緩和によって国内農産物価格が安くなれば、家計が助かりハッピーになれるというような感じ方が大半のようだ。しかし、ご飯の価格は今現在そんなに高いと言えるのだろうか? H26年産米の価格ではご飯1杯あたり17円に対して、ペットボトルのお茶8分の1の価格でしかない。これ以上の安価を求めれば、農家は辞めざるをえなくなり、国産の米は安価どころか手に入りにくいものに変わっていくだろう。

## 2) 壊される医療や保険制度

TPPによって壊されるのは農業だけではない。民間医療保険が拡大され、高額な自由診療との混合診療が始まり、新薬や新治療法には公的保険が適用されない為に、その適用保険を外資保険に取って代わられるという構造になってしまう。結果として、国民皆保険という日本が世界に誇るべき制度が壊されてしまうのだ。そして、特に危険なのはISD条項によって外国企業や投資家が進出国の規制や法制度によって営業妨害されたと訴えれば、国が敗訴して賠償金の支払いを命じられることすらあるのだ。

## 3) 労働環境の悪化

労働力が自由化され、外国人労働者が低賃金で働くことになれば、国内の労働者の働く場が減り、賃金も下がり、それに伴う外国人への差別感情が高まり、フランスで起きたテロのような事態にもなりかねない。

## 4) 地方の衰退

学校や病院などの公共施設の運営が民営化され、外国資本が参入すれば、地域経済を支えてきた地元の中小零細企業が切り捨てられ、農業の衰退と共に地方が消滅していく可能性もある。

講演した民主党政権時代の元農水大臣山田正彦さんは、こうした事態を回避するためにも「TPP交渉差し止め違憲訴訟」という運動を始めることを提案し、参加者にその運動に加わることを訴えた。

時代は急激に動こうとしている。沖縄の基地、原発再稼動、集団的自衛権、憲法改正、農協改革、そしてTPPの問題。すべてが1つの線で繋がっていると思う。日米同盟を強化し、戦争の出来る国として日本を再編することを目指す現政権を見ていると「この国に主権は無い、すべてアメリカに握られている」との思いを強くする。誰もがうすす感じてきたことだが、ただ座して事態が流れるのを見ているだけで良いのだろうか。自分たちの食や命、地域をどのようにして守っていくのか、私たちは問われているのだ。



3月3日は「桃の節句」、ひなまつりです。女の子の成長を願い、邪気を払う日本古来の節句として現代にまで受け継がれたものです。

そんなひなまつりにちなんだ商品が庄内協同フアームにも2つあります。

どちらも、白と桃色と緑の三色で鮮やかに彩られた商品です。

ひしもちの方の白はお餅そのままの色、桃色は紅麹色素、緑は山形県産のよもぎを使用し、三色ぼんちゃんの白はお米の色、桃色はひしもちと同じ、緑は山形県のモロヘイヤ粉を使用してそれぞれの色を演出しております。

雛人形を飾つて家族で盛大に祝うという光景は昔に比べて少なくなつてしまましたが、現代のスタイルに合わせた形で女の子の節句を祝うのはいかがでしょうか。その彩り役として庄内協同フアームのひしもと三色ぼんちゃんを使用していただけるとありがたいです。



商  
品  
紹  
介

# ひなあられ

ペ  
ン  
リ  
レ  
イ

# 徒然草

中村 全



## 「約束」

「先に死んだほうが、死後の世界の様子を、その初のお盆に報告しよう。

それが小学生のときに祖父と交した約束である。

僕が言うのもなんだがよくできた人で、庭仕事以外の時間を読書に費やし、炊事、洗濯も難なくこなし、だいたいの事柄に理解を示してくれた。譲ることが無かつたのは相撲中継のチャンネル権だけである。今思えば、相撲中継を見ながらの早めの晩酌が唯一の娯楽だったのではないとさえ思える。

その祖父が他界して四年近く、やはりというべきか約束は果たされないままなのだ、今思うとそれがそうだったのかいう事が一つある。もともと、靈のたぐいは信じていないし見たこともないが祖父が亡くなつて一年が過ぎた頃の事である。

人生初の金縛りに見舞われる。それが心靈現象なのか、ただの肉体疲労なのか原因は分らないが、よく聞く金縛り現象そのものだつた。夜中にふと目が覚めたがなにかおかしい。部屋は真つ暗だが意識は間違いくつある。翌日の天気の心配

もできるし晩酌は缶ビールを一本しか飲んでない事も思い出せる。しかし身体は神経が通っていないかのようにいくら力を入れても一ミリも動かない、まるで砂のなかに沈んでいる様に。そして何かの気配と、一点しか見ることのできない視界の隅に徐々に浮かび上がる何か分からぬ違和感。頭の中にはアーログテレビの砂嵐の様な音が響いている。それがどれくらの時間続いたのか、あるいは一瞬だつたのか分からぬが、少しずつもどつてゆく体の硬直と共に激しい疲労感に襲われ、目を瞑るといつの間にか朝になつていた。何かづくしで申し訳ないのだけれど、それをつきとめていいのだから、今も何かは何かのまま分からない。経験したことのある人ならば分かると思うのだけれど、おそらくあれは夢と現実の中間あたりで起きたことなのだ。結局、祖父とは会えないままだが、同じころ、稲の収穫が終わり家族で食卓を開み今年も無事に終わつたことに感謝し乾杯をした次の瞬間、仏壇に供えてあつたリングが一つ転がり落ちてきた。母曰く、少しぐらぐらしていたことだつたが、きっと祖父が自分に乾杯の盃がないことへの催促だつたに違ひない。

姿こそ見せないが、きっと約束を憶えてくれている気がした。

もできるし晩酌は缶ビールを一本しか飲んでない事も思い出せる。しかし身体は神経が通っていないかのようにいくら力を入れても一ミリも動かない、まるで砂のなかに沈んでいる様に。そして何かの気配と、一点しか見ることのできない視界の隅に徐々に浮かび上がる何か分からぬ違和感。頭の中にはアーログテレビの砂嵐の様な音が響いている。それがどれくらの時間続いたのか、あるいは一瞬だつたのか分からぬが、少しずつもどつてゆく体の硬直と共に激しい疲労感に襲われ、目を瞑るといつの間にか朝になつていた。何かづくしで申し訳ないのだけれど、それをつきとめていいのだから、今も何かは何かのまま分からない。経験したことのある人ならば分かると思うのだけれど、おそらくあれは夢と現実の中間あたりで起きたことなのだ。結局、祖父とは会えないままだが、同じころ、稲の収穫が終わり家族で食卓を開み今年も無事に終わつたことに感謝し乾杯をした次の瞬間、仏壇に供えてあつたリングが一つ転がり落ちてきた。母曰く、少しぐらぐらしていたことだつたが、きっと祖父が自分に乾杯の盃がないことへの催促だつたに違ひない。

太陽暦で1年が366日ある年、2月29日のある年のことを使うう年という。夏季オリンピック、パラリンピックが開催される年である。次回は来年リオデジャネイロ大会である。

建国記念の日は「日本」の誕生日だが「記念日」ではなく「記念の日」なのは、建国された日とは関係なく、単に建国されたということを記念する日である。

2月15日はお釈迦様が亡くなられた記念の日で「涅槃会」(ねはんえ)といわれている。今から2500有余年前、ネパールで誕生、29歳の時、家族を捨て出家し、35歳の時、お悟りを開いて以来45年東奔西走し、衆生済度に精魂を傾けられ、80歳を最後にこの世を去った。釈迦如来殿はよみうりランドの聖地公園のシンボルとしてあり、中にはお釈迦様の仏舎利と聖髪が収められている。「聖地公園」は、遊園地の中にありながら、重要文化財などの数々の遺跡が点在し、四季折々の自然と歴史の散策を楽しめる場所である。機会があれば一度行ってみたい。(熊)

## ファーム職員紹介

今回は庄内協同ファームの常勤の職員の皆を紹介します。今年から1人メンバーが増え、6人体制となりました。

—— 今後とも宜しくお願いします。 ——



阿部さん



山口さん



今野さん



大川さん



舟越さん



本間さん

あとがき

